



阿倍野維新プレス

うめぞの周
市政報告機関紙

第1号

発行日 2013年1月15日(火)

《平成二十五年 新春ご挨拶》

区民の皆様におかれましては、平成25年の新春をご家族お揃いで、お健やかに迎えることとお慶び申し上げます。旧年中は公私にわたり、多くのご指導ご鞭撻を賜り誠にありがとうございました。皆様にご与えて頂いた任期もまもなく折り返し地点を迎えます。この2年間は区民の皆様の声に耳を傾け、地域に根付いた活動をモットーに取り組んでまいりました。また、議会では交通水道委員会・市政改革特別委員会・一般会計等決算特別委員会などで大阪市に対して様々な提言・質問を行い、既存の行政組織からの脱却を目指してきました。

特に交通水道委員会では市民生活に直結する質疑を郵局に数多く行いました。交通局に対しては逼迫するバス事業や、地下鉄の民営化に向けた組織変革の求められる課題が山積みです。しかしながら交通機関は生活の礎であり、切り捨てる発想ではなく、現状を鑑み、環境改善から運営状況まで幅広い目線で取り組んでほしいと要望致しております。

また水道局にも水道事業の海外展開や経営改革など早急に対応しなければならない課題が多数あります。それらを踏まえながら、当然に水道はライフラインの核の1つであり、危機管理の側面からも防災対策を更に進めることが必要です。市民生活における「水」の安全性を確保するために、今後も取り組んでまいります。

一昨年の橋下市長就任以来、大阪市内では聖域なき組織改革を行っております。その中の一つとして昨年8月より公募区長が各区役所で実務を執り、阿倍野区では羽東良紘(はとうよしひろ)氏が着任されました。新年度からは、予算編成の段階から携わられ、本当の意味での新しい阿倍野区の運営が始まります。「阿倍野歩道橋」の完成が目前に迫り、日本一高いビルとなる「あべのハルカス」が来年に開業すれば、より一層、南大阪の玄関口として地域経済発展の起爆剤となり、大きな注目を集めていくことになると考えられます。

私自身、長らく地域に根付いてきた伝統を守りながら発展させていき、地域から底上げするような都市発展を目指し、区長と共に新しい区政に取り組んでまいります。

新年の門出に当たり、今年一年の皆様方のご多幸とご健勝を心よりお祈り申し上げますとともに、変わらぬご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



大阪市議員 梅園 周

明けましておめでとうございます。

皆さま方におかれましては、すがすがしい新年を迎えられたことと心からお喜び申し上げます。さて、大阪市内では大阪にふさわしい大都市制度の実現を見据え、基礎自治行政について、現在の大阪市のもと、「ニア・イズ・ベター(補完性・近接性の原理)」を徹底的に追求した新しい住民自治と区政運営の実現、ムダを徹底的に排除した効果的かつ効率的な行政運営をめざした市政改革に取り組んでいます。

昨年は大阪市24区において、公募区長を選任しました。これまでよりも大きな権限を持った区長のもと、区の特性や地域の实情に即した施策や事業を経営的に実行してまいります。また今年度は、広域自治体と基礎自治体の事務配分、財政調整制度など、新たな大都市制度の具体的な制度設計にかかる協議を進めてまいります。

また、本市と致しましては「ナレッジキャピタル」において、大阪が世界にイノベーションを生み出す拠点として認知されることをめざし、世界から人材・資金・情報を引き込むグローバルイノベーション拠点の形成に取り組んでいます。また、市民が連携して、「新たな公共」による公共空間の高質な維持管理やまちの賑わい創出など、先進的なエリアマネジメントを実施します。さらに、うめきた2期区域においては、大阪・関西の玄関口にふさわしい、魅力あふれる拠点となるよう、大規模な「みどり」の空間を確保したまちづくりの検討を進めてまいります。

この大阪駅周辺地区やベイエリア(夢洲・舞洲)など大阪市内における国際戦略総合特区へ進出する企業を応援するため、全国で初めて、法人府・市民税や法人事業税、固定資産税、事業所税など府市の地方税が「最大ゼロ」となる「特区税制」を昨年12月からスタートしました。これにより、産業集積の促進や産業の国際化の強化を図ります。

皆さまがお住まいの天王寺・阿倍野エリアは大阪市の都市計画の中でも、今後の中核となる地区であり、大阪市内が発展していく上で成長が不可欠です。

市全体で、社会を支える現役世代が力を十分に発揮できる環境を整え、大阪・関西が持つ強みに磨きをかけて、国内外から人材・資金・情報が集まる都市魅力と備えた活力ある大阪を梅園議員と共にめざして、取り組んでまいりますので、今後とも阿倍野区を担う梅園議員に暖かいご支持・ご声援賜りますようお願いいたします。



大阪市長 橋下 徹

新区長との阿倍野区改革

橋下新市長就任以来、日々、その動向が報道機関を通して市民の皆様のお目に入ると思っております。

その中でも、大きな改革の一つとして、新区長の着任があげられるのではないのでしょうか。阿倍野区では羽東良紘(はとうよしひろ)新区長が九月に着任され、四年の任期をスタートされました。本年度(H25年)からは、予算の段階から区政に携われ、新区長主導のもと本当の意味で新しい阿倍野区の運営が始まります。

区長の掲げる「誰もが住みたい、住み続けたいまち『あべの』」を実現させるため、区民の皆様とのコミュニケーションを強化し、協働していくことをプロセスとして重要視されています。

大阪市政の観点から見て、天王寺・阿倍野区の都市計画は非常に重要であり、今後大きな注目を集めていく事になると考えられます。阿倍野区に息づく伝統を守りながら発展させていく、地域から底上げするような都市発展を目指し、区長とともに新しい区政に取り組んでまいります。

文化事業



大阪の活性化、「文化都市」「観光都市」という魅力ある都市へ、活力ある豊かな社会の形成に文化は不可欠です。「人」が「文化」を育て、「文化」が「人」を育てる。そして「文化」と「歴史」は共に育っていくものであると思っております。しかしながら、その文化事業の一つ一つを行政が担うべき範囲であるのか、そうでないのかは我々がしっかりと精査し議論する必要があると考えております。

地下鉄・バス事業



大阪が誇る文化がコンテンツとして力を付け、より輝き、不透明な財源から脱却し、透明性の高い組織へと発展してまいります。今後ともサポートしてまいります。

隙間のある児童生徒への通学支援



学校統廃合や学校選択制を議論する中で、通学区域が広がることにより、障がいのある児童・生徒の通学が出来なくなるのではないかと不安の声が聞き、実際に質疑致しました。

教育委員会では、車椅子などを使用している肢体不自由のある児童・生徒に対して登下校をサポートするために通学用タクシーを運行し、また福祉制度として障がいのある児童・生徒が地下鉄やバスの乗車の際に障がいに応じた減免制度や無料乗車証を発行しております。

今後、学校統廃合・学校選択制の議論が進んでいくことになると考えられますが、通学に際してこうした不安がないように対応していくことの必要性を確認しました。教育委員会としては、今後とも丁寧に対応していくとの回答を得ております。

水道事業



水道局には事業の海外展開や経営改革など待ったなしの課題が多く、またライフラインの一つとして、防災対策の強化に向けた改善も必要です。市民生活における水の安全性を確保するために、今後も注視してまいります。

海外事業展開では、大阪市の誇る高い水道技術が認められ、ベトナムのホーチミン市との技術提携が着実に進み、海外進出への可能性が広がりました。

うめぞの周の取り組み

